

## 日本文学講読 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

鳥羽 耕史・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】「近代文学の終り」(柄谷行人)が語られる中、「現代文学」が何であるのかは、文学観が問われる問題である。ここでは、「近代文学」の延長線上にある「現代文学」として考えられるのが、とりあえず「昭和」の文学であると仮定して、「昭和文学史」を再検討してみたい。授業の中では、それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ、「文学史」の展開を考えていきたい。

【授業概要】プリントを教材として用い、二日目以降のプリントは事前に読んできってもらう。授業はそれを前提として行い、出席者には積極的な発言を求める。

【キーワード】文学

【先行科目】『日本文学研究 I』(0.2)

【関連科目】『日本文学演習』(0.5)

【履修上の注意】授業時に発言を求めるので、指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと。

【到達目標】「昭和文学史」の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる。

【授業計画】

1. ガイダンス:「昭和文学」と「現代文学」
2. 関東大震災と「昭和」のはじまり
3. モダニズム文学
4. プロレタリア文学
5. 転向文学と「文芸復興」
6. 戦時下の文学 (1)
7. 戦時下の文学 (2)
8. 戦後の文学 (1)
9. 戦後の文学 (2)
10. 戦後の文学 (3)
11. 高度成長期の文学 (1)
12. 高度成長期の文学 (2)
13. 高度成長期の文学 (3)
14. 1980 年代の文学
15. 「昭和文学史」再考
16. レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポートと授業時の発言、期末レポートにより総合的に評価する。

【再試験】行わない。

【教科書】特に指定しない。教材としてプリントを配布する。

【参考書】年表の会編『近代文学年表』(双文社出版, 2002 年増補 4 版), 『新潮日本文学アルバム別巻 昭和文学アルバム 1・2』(新潮社, 1986-87 年) など。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218939>

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため、メールまたは授業時にお問い合わせ下さい。), [toiba@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:toiba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 授業時間の直後)